

令和7年度 学校評価報告書 三縄小学校

[様式2-1]

2 分野別評価

(1) 学校経営及び学校運営に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 経営方針の明確化とその実践状況	4	①年度当初、教職員間でめざす子どもの具体的な姿を共有できれば、もっと効果が出たのではないかと。保護者や地域の方に「お助け」をお願いしたことで、普段の子どもの様子を見てもらえた。学校の方針を知ってもらい、保護者の理解のもと教育活動を進められることにつながる。	子どもが学び方を選んで主体的に学習する際、学習内容が定着しているか確認しながら進めることが重要。これからの社会において自分から考え学び出すことは大事な力になる。	①年度当初に教職員間でめざす子どもの具体的な姿を共有する。
② 安全管理に対する取組状況	4	②毎月の安全点検や各避難訓練を実施することができた。しかし、全教職員での振り返りや共有徹底ができなかった。	私たちが子どもの頃は、言われたことをするという考え方だったが、今の子どもたちは自分の足で立っている感じがする。	②③全教職員で情報共有する時間を確保する。また、担当している学年以外の学年の様子を知る機会や仕組みをつくることができるようにする。
③ 課題への組織的な対応状況	4	③課題に対する組織的な対応に努めた。		④教職員が互いの授業を気楽に参観できるようにし、スキルアップと情報共有ができるようにする。
④ 教職員の資質向上に向けた取組状況	4	④⑤⑥毎週様々な研修を行い資質向上等につなげることができた。	個人のペースで学習を進められるのはとてもいい。社会に出ると仕事などで、チームになり目標を達成することもよくある。個別の学びだけでなく、協働的な学びも必要となる。	⑤⑥今後も研修を推進するとともに、講師等も招き最新の情報を身に付けられるようにする。
⑤ 教職員の健康管理への配慮	4	⑦保護者連絡ツール「totoru」の利用により、伝えたいことを即座に連絡できた。また、googleアンケート機能活用により、集計時間削減につながっている。長期休業日開けの「ゆったりスタート」は子どもにとって学校生活に戻る準備期間となった。教職員にとっても放課後、教材研究や学級事務等を行う時間を確保できた。		⑦日課表を見直す。
⑥ コンプライアンス推進への取組状況	4			
⑦ 業務改善・働き方改革への取組状況	4			
⑧ その他 ()				

(2) 教育目標及び教育計画に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 学校教育目標の具現化と実践状況	4	①②子ども主体の学習が進められるように努めた。また、地域の方との交流の機会を確保し、子どもが生き生きと学ぶことができるように実践した。	紙類のリサイクルで得たお金を子どもたちに任せ、総合的な学習の時間等の活動費に充てるのは、キャリア教育等、これからの生活に役立つことである。	①②年度当初に教職員間でめざす子どもの姿を共有するとともに、保護者ともその姿を共有する。そして、実施状況や子どもの様子について知らせることができるようにする。
② ナンバーワン・スクール、ステップアップ・スクールの具現化と実践状況	4	③各学年で創意工夫を活かした学習を進められるようにし、HPに掲載し保護者等に学校の取組を知ってもらえるように努めた。		③各学年に応じた創意ある教育課程を実施する。
③ 創意ある教育課程の編成と実施状況	3	④学校行事を行う際は、慣習的にならず、その都度必要性や目的について話し合う時間を確保することができた。		④学校行事実施後に教職員間で振り返る時間をとり、改善に活かす。
④ 学校行事の精選・充実と成果の状況	3			
⑤ その他 ()				

[様式2-2]

2 分野別評価 その2

(3) 主要な教育活動に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① わかる授業の実践とその成果の状況	4	①昨年度と比較して、授業の内容がよく分かるかと答えた児童が6割近くにのぼった。教職員が授業を工夫して児童にわかりやすい授業を実践できた成果だと考える。	タブレット端末がなければ分からないというのではなく、様々な方法で調べたり、問題解決したりする力を身に付けておくことが必要だと考える。	①子どもに任せ、主体的に活動できるように環境づくりや教材研究を行い、児童の思考力の向上に努める。
② 生徒指導の取組とその成果の状況	3	②学校実施のアンケートを情報共有することで、子どもたちのSOSに迅速に対応することができた。しかし、各クラスの状況を全教職員で把握する時間を取れなかったことで、気づきが遅れたことがあった。	子どもの運動能力・体力が低くなっていると感じる。よくこける姿を見る。また、自分で遊んで遊ぶことを知らない。子どもの遊ぶところも少ない。小さいうちから運動する経験を積むことができるよう保護者としても子どもを外に連れ出すようにしていきたい。	②学校実施のアンケート結果を受けてから各クラス、子どもの状況を共有する時間も設ける。
③ 道徳教育及び人権教育の取組とその成果の状況	3	③様々な外部講師を招き、話を聞いたり、交流したりすることで、子どもの人権意識を高めることができた。		③地域の方や社会で活躍する方、専門家から学ぶ時間を確保できるようにする。
④ 健康・安全教育の取組とその成果の状況	3	④一定の評価を得ることができたが、SNS、オンラインゲーム等の使用時間は2時間以上が50%以上にのぼり、児童の体力や視力の低下等、体や心に与える影響が懸念される。		④家庭でもできる運動遊びや体力作りについて、積極的に呼びかけるとともに、スマホの使い方や家庭でのルール作りの必要性を発信し続ける。
⑤ 学力向上への取組とその成果の状況	3	⑤一定の評価を得ることができたが、家庭学習の取り組みや家庭読書の習慣が身に付きづらい。		⑤学習時間のめやすを子どもに周知するとともに、教科書の中で紹介されている本を児童が手に取りやすい環境作りができるようにする。
⑥ その他 ()				

(4) 保護者及び地域との連携等に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 保護者・地域社会への情報発信及び意見収集状況	4	①学校HPの更新進度を高めることで、保護者の教育活動に対する関心が高まっている。	地域でも仕事などの関係で地域の役割を担う人が少なくなってきた。小さいころから地域の仕組みや地域の活動に尽力している人を知ることも大切である。今は地域に残る私たちが地域を元気にしていきたい。	①tetoruやHPの活用・更新進度を継続し、保護者の関心をより高められるようにする。
② 地域行事やボランティア活動への参加状況	4	②一定の評価を得ることができた。今後も継続して実施していきたい。		②「お助け」により保護者の方々がボランティアスタッフとして学校運営に参画していただいた。今後も継続する。また、学校も地域への理解を深め、行事等に協力できるようにする。
③ PTA活動の活性化に向けた取組状況	3	③保護者・地域の方が学校の取り組みを理解し協力していただけるおかげで、PTA活動や学校・地域行事も協働して進めることができています。	子どもの数が減ってきていることは地域としても感じている。近隣の学校に通っている子もいる。地域や学校が魅力ある活動に取り組み、来たいと思える地域や学校をめざしていく必要性を感じる。	③児童数・世帯数が減少する中、行事やPTA活動のあり方を保護者・地域の方とともに考えていくことができるようにする。
④ 他校や異校種間との交流連携強化への取組状況	3	④保育所と相互参観をすることができ、今後入学予定の児童の様子を知ることができる。これを続けることで、保小連携を進めることができると考える。		④来年度も保育所との連携を計画しており、相互参観や保から小へのスムーズな接続ができるようにする。
⑤ 地域の人材や外部講師の活用状況	4	⑤昨年度と同様に様々な出前授業や講師先生の招聘ができ、多様な体験活動を行うことができた。		⑤来年度も計画的に出前授業や講師先生の招聘を行い、子どもの体験を充実できるようにする。
⑥ その他 ()				

[様式2-3]

2 分野別評価 その3

(5) その他に関する評価

評価項目	自己評価	自己評価結果の概要	学校関係者評価の概要	次年度の改善策
① 教育環境の安全管理及び整備状況	4	①教育環境の充実、安全管理は、点検の結果を受けて、市教委の協力を得て改善できている。	家庭では、ゲームやSNS、YouTubeを長時間使うことが多い。思春期になるとすべてを管理することはできない。外に連れ出し、体を動かすようにしていきたい。	①子どもたちの下校など大人の目が届かないところで事故や事件に巻き込まれないように指導を徹底するとともに、学校周りの安全管理をより一層努めていく。
② タブレット等、ICT機器の活用状況	4	②ICT活用は、授業、校務ともに活用が進んでいる。	携帯があることで便利にはなったけれども、相手の顔を見て直接話す方がいい。SNSなどの文面では、大人でも誤解を招くことがある。特に、子どもは未熟な言葉を遣うことが多い。顔を見て話す表情を見ることができ、気持ちを感じ取ることもできる。何か問題が起きたときは、大人は子どもと一緒に感情的にならないようにし、落ち着いて対応することを心がけたい。	②AIやSNSの使い方など、より困難さが高まっている。情報モラル教育をさらに推進していく。
③ 特別支援教育の取組状況	3	③一人一人に合った個別最適な指導ができるように努めた。		③「チーム三縄」のもと、児童を担任だけでなく、全職員でかかわっていく姿勢をもち、PBSの考え方のもと特別支援教育の充実を図っていく。
④ 指定研究等の取組状況(該当校のみ)				
⑤ 工夫した部活動の実施状況(中学校のみ)				
⑥ その他 ()				